

短期大学学生調査 (JJCSS)とは

Japanese Junior College Student Survey
2008年度より開始

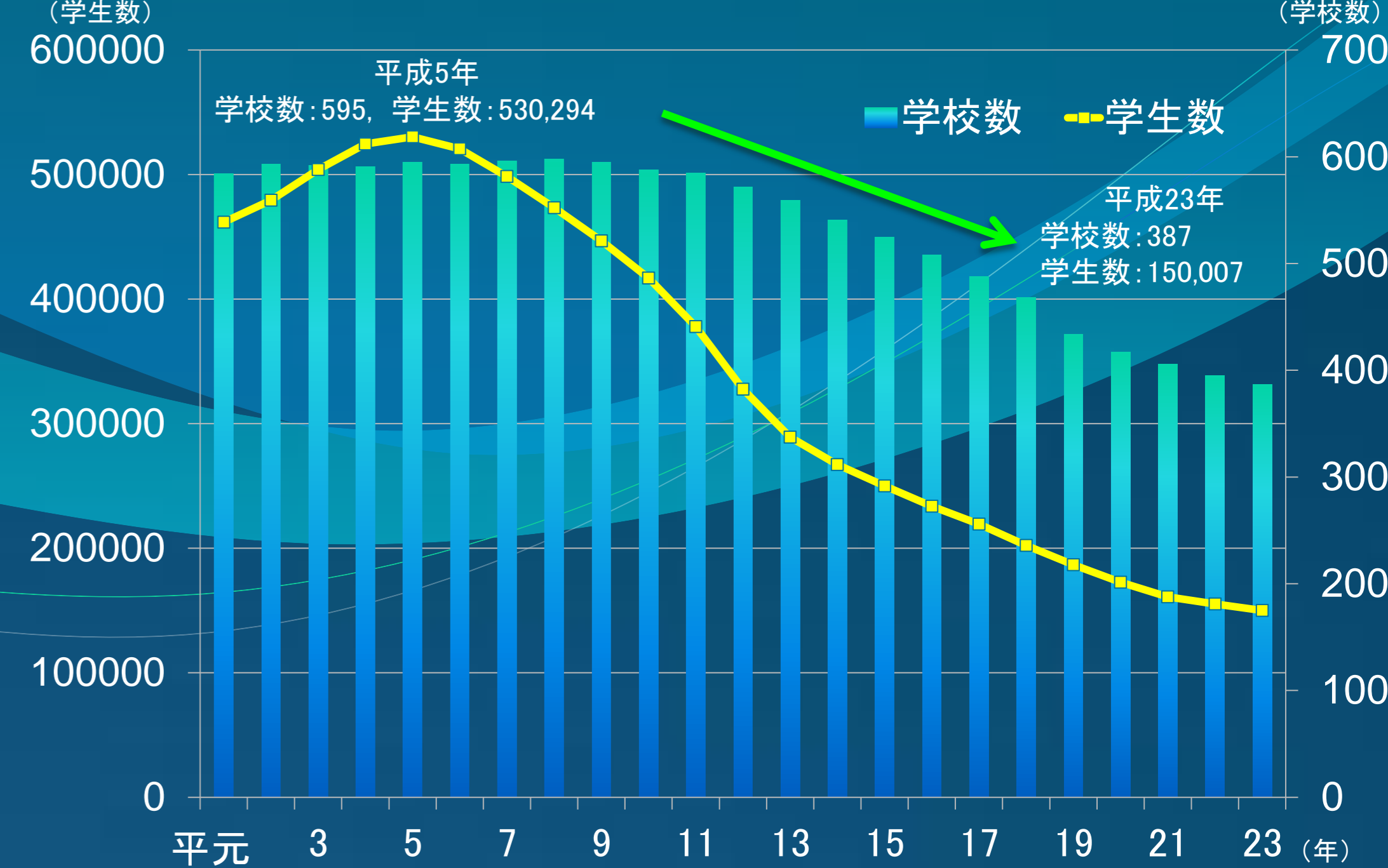
- ・研究開発機関
- 短期大学基準協会調査研究委員会
- 大学生調査研究プログラム (JCIRP)

* JCIRP (Japanese Cooperative Institutional Research Program) 同志社大学の山田礼子教授をリーダーとするプログラム
アメリカのUCLA高等教育研究所の実施するCIRPを模範

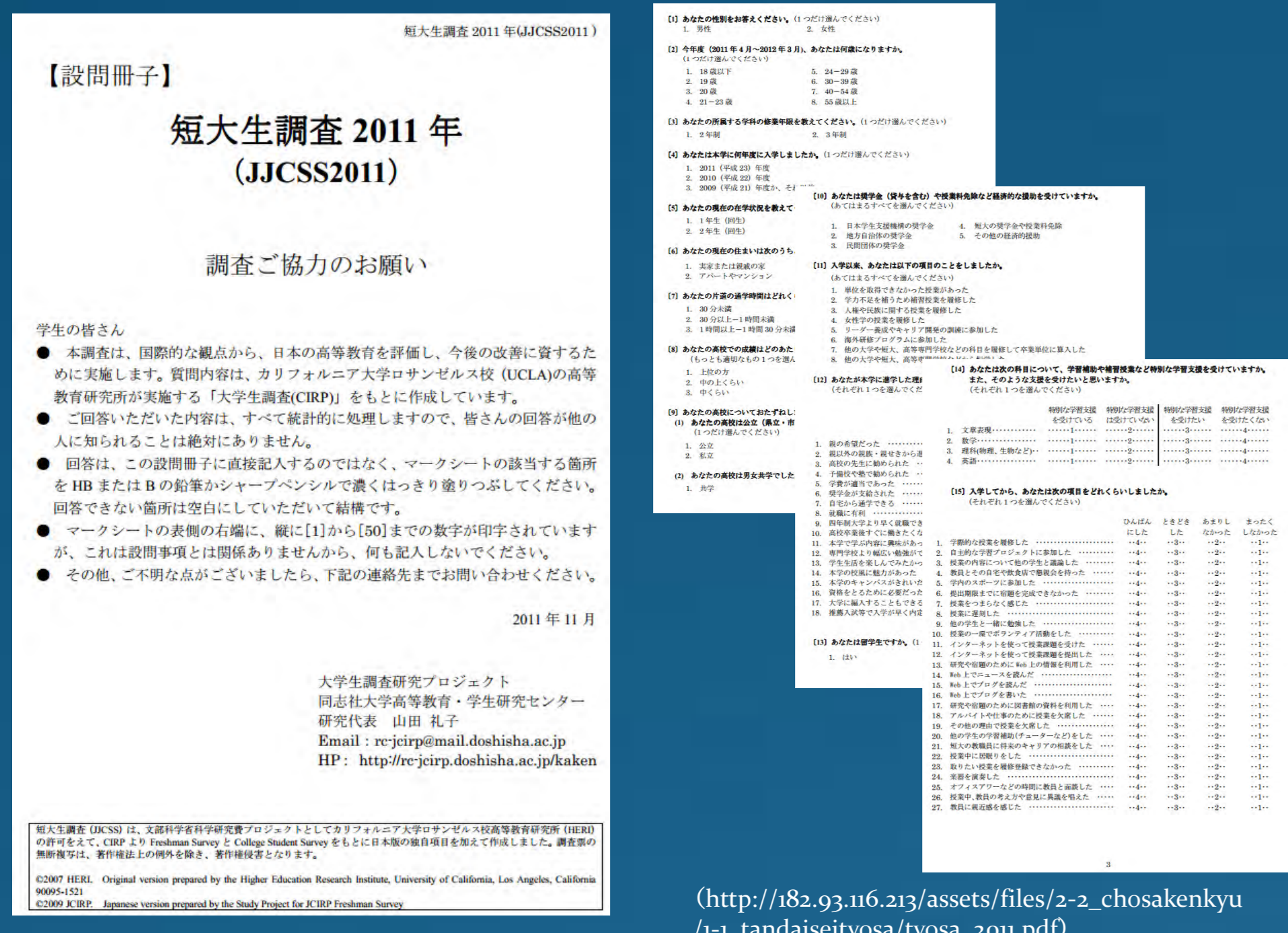
JCIRPの構造



短期大学の状況



調査票見本(参考)



JJCSSの利用方法

認証評価

国際比較を含めた他機関とのベンチマーク

短期大学全体の実績評価

JCIRPメンバーによる学術研究利用 (研究開発)

調査の流れ

- ・9月～10月: 参加校募集
- ・11月～12月: 調査実施
- ・翌年2月～3月: 参加短大への個別集計結果の報告
- ・翌年8月下旬～9月初旬: 短期大学基準協会会員校へ中間報告の送付
- ・翌年10月: 最終報告

単純集計結果からわかること(Q19)

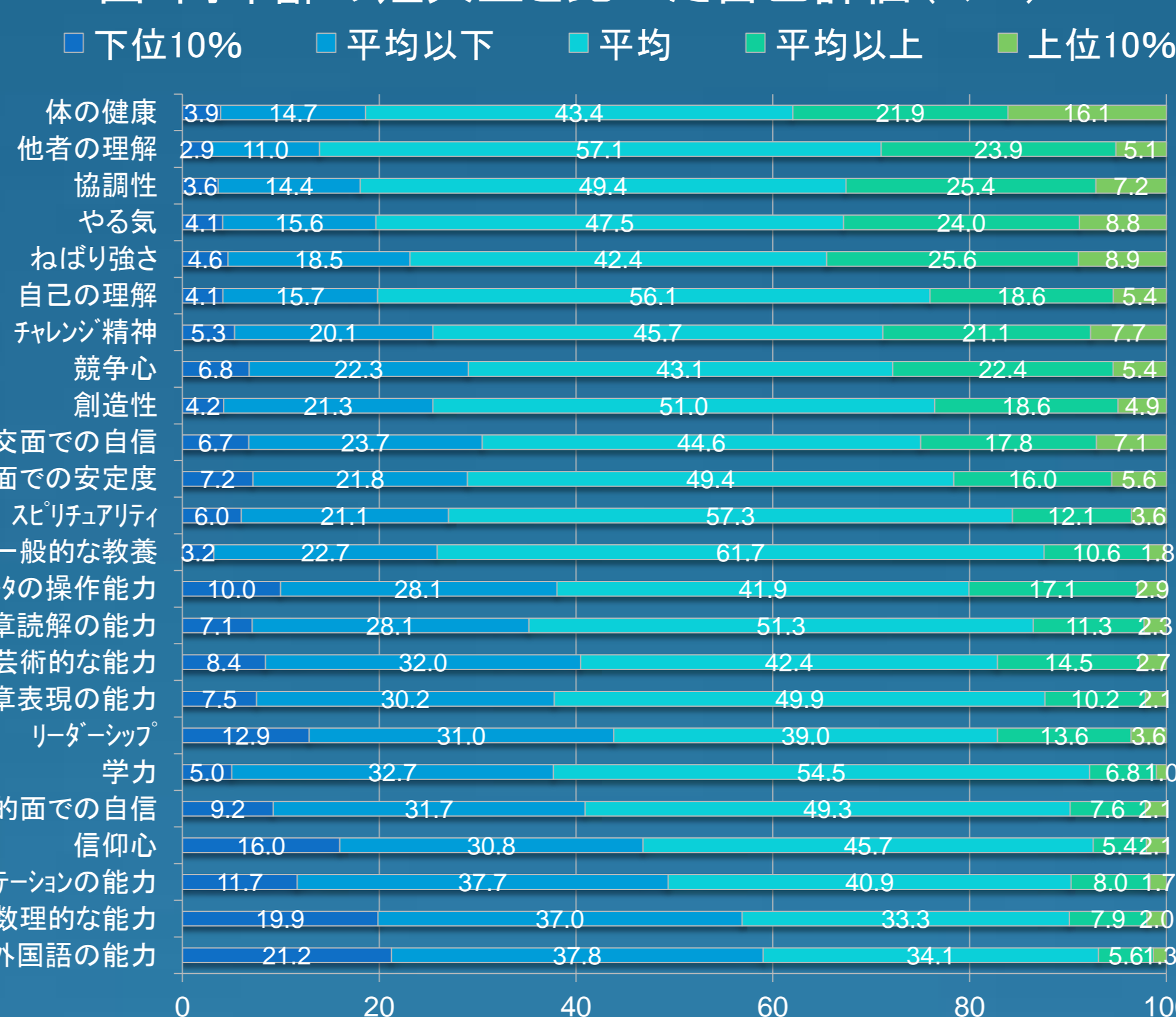
- 自己評価が高い傾向にある項目
体の健康、他者の理解、協調性、やる気、ねばり強さ、自己の理解、チャレンジ精神

メンタル的なモチベーション ↑

- 自己評価が低い傾向にある項目
文章表現の能力、リーダーシップ、学力、知的面での自信、信仰心、プレゼンテーションの能力、数理的な能力、外国語の能力

学力への不安 ↓

図: 同年齢の短大生と比べた自己評価(Q19)



単純集計結果からわかること(Q21～)

- 満足度や知識・技能の獲得、短大での適応などの設問で「対人関係」に関する項目に関して、高い割合で肯定的な回答に。

- 受験に関して、第1志望で入学している短大生が大多数。入試方式も推薦入試などで入ってくる短大生がほとんど。推薦で早く決まる短大が第1志望である可能性が高い。

短大生調査の分析活用事例①

◎能力伸長度に関する複数の変数別の平均値の比較

【変数】

- ・入学後の能力伸長状況を尋ねた設問23のうち、能力が「増加した」とした短大生が特に多かった上位6項目

- Q23-3「専門分野や学科の知識」
- Q23-1「一般的な教養」
- Q23-8「他の人と協力して物事を遂行する能力」
- Q23-7「人間関係を構築する能力」
- Q23-15「コミュニケーションの能力」
- Q23-20「卒業後に就職するための準備の程度」

表1 性別

項目	性別	平均値	t値	自由度	有意性
Q23-3 専門分野や学科の知識	男性	3.93	-1.63	9397	n.s.
	女性	3.97			
Q23-1 一般的な教養	男性	3.60	1.27	9396	n.s.
	女性	3.57			
Q23-8 他の人と協力して物事を遂行する能力	男性	3.58	-1.78	9392	n.s.
	女性	3.63			
Q23-7 人間関係を構築する能力	男性	3.55	0.15	9397	n.s.
	女性	3.54			
Q23-15 コミュニケーションの能力	男性	3.55	0.47	9388	n.s.
	女性	3.53			
Q23-20 卒業後に就職するための準備の程度	男性	3.48	-2.27	1127.3	**
	女性	3.55			

p<.05 ** p>.05 n.s.

表2 入試形態

項目	入試形態	平均値	t値	自由度	有意性
Q23-3 専門分野や学科の知識	一般学力入試	3.93	-2.06	2109.6	**
	各種推薦入試	3.98			
Q23-1 一般的な教養	一般学力入試	3.53	-2.26	2083.5	**
	各種推薦入試	3.58			
Q23-8 他の人と協力して物事を遂行する能力	一般学力入試	3.59	-2.18	2111.1	**
	各種推薦入試	3.64			
Q23-7 人間関係を構築する能力	一般学力入試	3.52	-1.73	2081.4	n.s.
	各種推薦入試	3.56			
Q23-15 コミュニケーションの能力	一般学力入試	3.49	-2.38	2052.8	**
	各種推薦入試	3.55			
Q23-20 卒業後に就職するための準備の程度	一般学力入試	3.45	-4.71	2100.7	***
	各種推薦入試	3.56			

p<.01 *** p<.05 ** p>.05 n.s.

【結果】

①性別(男性/女性)

→女性の方が男性より卒業後の就職の準備の程度が大きく増えたことを実感しやすい。

②入試形態(一般学力入試/各種推薦入試)

→一般入試で入った短大生より各種推薦入試で入った学生の方が能力の伸びを感じやすい(人間関係構築力除く)。

③学年(1年生/2年生以上)

→すべての項目で有意な結果。ここから1年生より2年生以上の方がこれら6つの項目に関して能力の伸びたと評価しやすい傾向にある。

表3 学年

項目	学年	平均値	t値	自由度	有意性
Q23-3 専門分野や学科の知識	1年生	3.97	-7.17	4080.1	***
	2年生以上	4.14			
Q23-1 一般的な教養	1年生	3.55	-2.27	4211	**
	2年生以上	3.60			
Q23-8 他の人と協力して物事を遂行する能力	1年生	3.60	-7.70	4065.8	***
	2年生以上	3.78			
Q23-7 人間関係を構築する能力	1年生	3.51	-7.30	4065.3	***
	2年生以上	3.68			
Q23-15 コミュニケーションの能力	1年生	3.48	-9.10	4079.5	***
	2年生以上	3.69			
Q23-20 卒業後に就職するための準備の程度	1年生	3.49	-11.94	4199	***
	2年生以上	3.77			

p<.01 *** p<.05**

活用事例②: ベンチマーク

これまでの分析で、短大生の能力の伸長は学年効果がより顕著な結果に

- ☆この結果をベンチマークの観点で見たらどうなるか
- ⇒一大学の結果と参加者全体の結果を比較。
- なお、専門分野(ここでは教育)との平均値の比較も同時に実施

【結果】

表は左からA大学全体、A大学(教育のみ)、JJCSS2011(教育のみ)、JJCSS2011全体となっている。

これらを見るとA大学全体とJJCSS2011全体の平均値ではJJCSS全体の方が数値が高くなっている。

ただ、A大学の専門分野「教育」の学生に限定して分析すると、JJCSS2011全体と同等以上の伸びを示している項目がある。

- ◎A大学の専門分野「教育」の学生とJJCSS2011全体で専門分野「教育」の学生での比較
- ⇒双方伸長度合いはそれほど変わらず
- ⇒また伸びの傾向についても全体同様1年生より2年生以上の方が伸びを示す

ベンチマークに使用する短大のプロフィール

【参加人数】785人
【内訳】

- ・ 男性:女性=58人:715人
- ・ 1年生:2年生以上=423人:349人
- ・ 専門分野「教育」:「それ以外」=306人:461人

表4 A大学とJJCSS2011全体の平均値比較

項目	学年	A大学全体 (N=785)	A大学(教育のみ) (N=306)	JJCSS2011全体(教育のみ) (N=4276)	JJCSS2011全体 (N=9367)
Q23-3 専門分野や学科の知識	1年生	3.86	3.94	3.97	3.92
	2年生以上	3.80	4.08	4.14	4.04
Q23-1 一般的な教養	1年生	3.52	3.54	3.55	3.56
	2年生以上	3.60	3.65	3.60	3.58
Q23-8 他の人と協力して物事を遂行する能力	1年生	3.44	3.49	3.60	3.59
	2年生以上	3.55	3.80	3.78	3.67
Q23-7 人間関係を構築する能力	1年生	3.44	3.46	3.51	3.51
	2年生以上	3.51	3.69	3.68	3.59
Q23-15 コミュニケーションの能力	1年生	3.35	3.39	3.48	3.51
	2年生以上	3.45	3.71	3.69	3.57
Q23-20 卒業後に就職するための準備の程度	1年生	3.49	3.50	3.49	3.48
	2年生以上	3.53	3.84	3.77	3.62

今後の研究開発に向けた発表者の課題意識

調査票の検討
過去の調査結果を踏まえた項目数の調整
設問(項目)内容における使用語句・表現の修正

- ・調査の活用実態の把握
- 調査参加校への聞き取り調査等を通じ、情報に対する正確なニーズを把握し、調査研究に還元したい

参考文献

- 山田礼子, 森利枝, 相原総一郎, 2009, 「JJCSSから見える短大生の姿-短大生調査の概要と短大生の特徴-」, 日本教育社会学会第61回大会発表資料
- 相原総一郎, 2012, 「教育系短期大学の学習成果」, 『大学論集』43, p.301-8

その他関連資料は、短期大学基準協会のウェブページから閲覧できます

http://www.jaca.or.jp/service/other/research/jjcsc.html